

第2章 保護者に対する質問紙調査

第1節 質問紙調査の概要

1 方法および調査対象者

第1章「少年に対する質問紙調査」の調査対象少年の保護者を調査対象者として、質問紙による調査を実施した。

調査対象者の保護者別の内訳は表3のとおりである。

表3 対象者の保護者別内訳

		父親		母親		その他		無回答		計	
一般群	中学生	474	867	373	713	11	22	8	14	866	1616
	高校生	393		340		11		6		750	
非行群	中学生	101	225	215	399	9	13	2	3	327	640
	高校生	124		184		4		1		313	

保護者別では、一般群が父親53.7%母親44.1%に対し、非行群は父親35.2%母親62.3%であり、一般群では、父親の方が母親より約10ポイント高く、非行群では、母親の方が父親より約30ポイント高かった。

また、父親・母親以外の保護者は、一般群が1.4%、非行群が2.0%であった。

2 調査内容

1. 保護者の規範意識の実態

- 1) 少年の逸脱行動や日常生活上の行動に対する学齢別許容性
- 2) 少年の逸脱行動に対する悪質意識

2. 少年の非行抑止阻害理由と規範意識形成要因

- 1) 少年の非行抑止を阻害する理由
- 2) 家庭のしつけ

3. 子どもに問題があるときの対応

- 1) 配偶者への相談

- 2) 警察への期待
- 4. 属性に関すること
 - 1) 年齢
 - 2) 子どもの数
 - 3) 子どもについての心配や不安

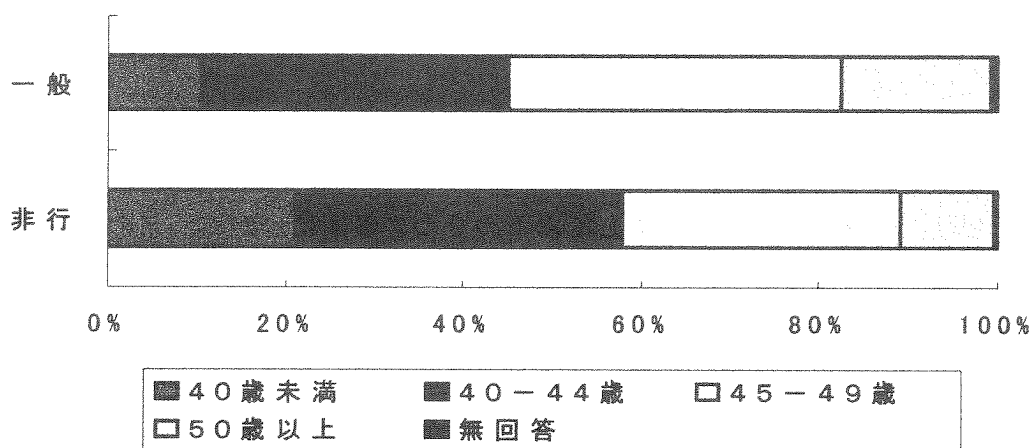
第2節 調査対象者の属性

この節では、調査対象保護者の年齢や子どもの数、子どもについての心配や不安について述べる。

1 年齢

保護者の年齢は、図5-1に示すとおりである。

図5-1 保護者の年齢



これをみると、一般群の保護者では、45-49歳（37.1%）40-44歳（34.5%）の順になっているのに対し、非行群の保護者では、40-44歳（36.7%）45-49歳（31.1%）の順になっており、一般群の方が若干ではあるが年齢が高くなっているが、年齢構成はほぼ同じであった。

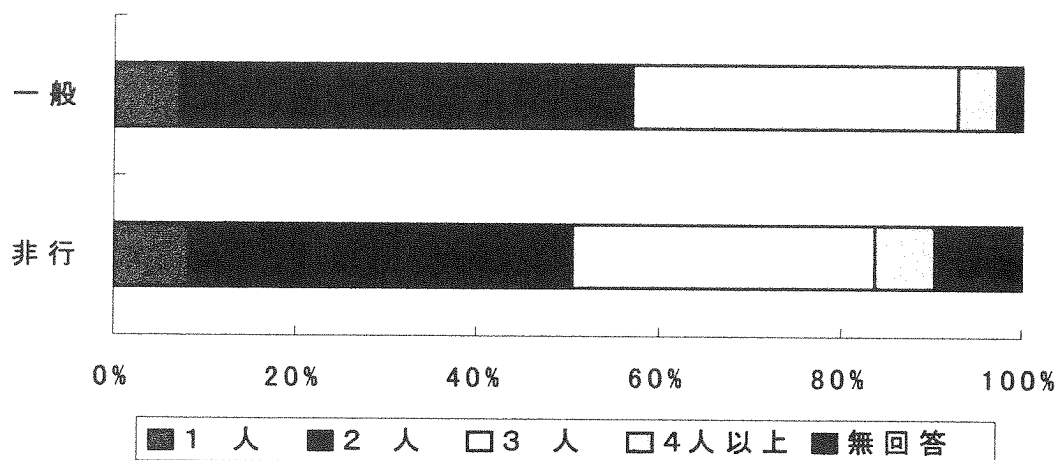
2 子どもの数

保護者の子どもの数は、図5-2に示すとおりである。

これをみると、両群の保護者とも2人が一番多く（一般群；49.8%、非行群；42.2%）、次いで3人（一般群；35.8%、非行群；33.3%）の順になっている。

なお、無回答は、一般群の保護者が2.7%、非行群の保護者が9.4%であった。

図 5 - 2 保護者の子どもの数



3 子どもについての心配や不安

ここでは、保護者が子どもに対して以下の9つの事柄について、どのくらい心配や不安を抱いているかを尋ねた結果を述べる。

- ア 子どもの生活態度・習慣・性格などの心配【生活態度の心配】
- イ 子どものことがよく分からない不安【分からない不安】
- ウ 子どもの将来(受験のことを含む)に関する不安【将来に関する不安】
- エ 子どもの通っている学校・学校の先生に関すること【学校に関すること】
- オ 子どもの勉学・成績に関すること【成績に関すること】
- カ 子どもの友人関係・異性関係に関すること【友人・異性関係】
- キ 子どもの健康や体力に関すること【健康に関すること】
- ク 子どもが非行化しないかという心配【非行化の心配】
- ケ 自分にうまく子どもが育てられるかという心配【子育ての心配】

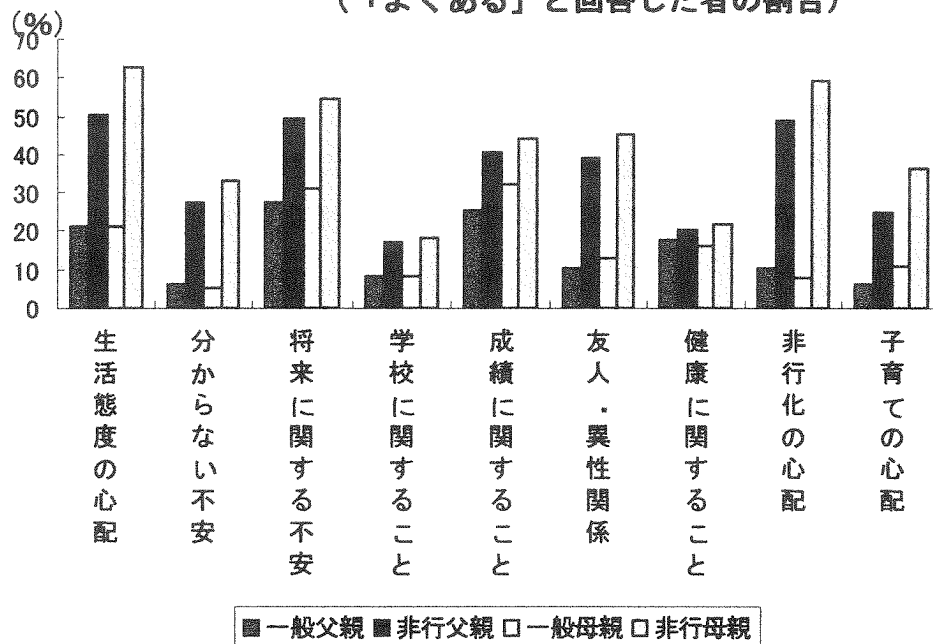
回答は、9つの事柄について、

- 1 よくある
- 2 たまにある
- 3 全くない

の中から1つを選択するよう求めた。

それぞれの事柄について、「よくある」と回答した者の割合は、図5-3に示すとおりである。

図5-3 子どもについての心配や不安
 (「よくある」と回答した者の割合)



これをみると、9つの事柄すべてについて、父親、母親とも一般群の保護者より非行群の保護者方が「よくある」と回答した者の割合が高く、非行群の保護者の方が、子どもについて心配や不安を感じている。特に、生活態度の心配（非行群父親；50.2%、非行群母親；62.9%）や将来に関する不安（非行群父親；49.3%、非行群母親；54.4%）、非行化の心配（非行群父親；48.9%、非行群母親；58.9%）については、非行群の保護者の概ね半数以上の者が「よくある」と答えているが、これは非行群の少年の現在の行動を見ていて、その保護者は心配や不安を抱かざるをえない状況を示している。

また、それぞれの群の父親と母親を比較すると、一般群では多少のばらつきはあるがほぼ同程度の心配や不安を抱いているのに対し、非行群では、母親の方が父親より心配や不安をもっている。

4 まとめ

この節では、調査対象者である保護者の属性を調べた。

その結果、両群の保護者とも、年齢は40歳代が約7割であり、子どもの数は2～3人というのが概ね8割となっており、年齢や子どもの数では、ほぼ同じ平均像であった。

しかし、子どもに対しての心配や不安は、非行群の保護者の方が一般群の保護者より強くもっていることが示された。